

5 館内学習プログラム【お迎え事業】

(1) 館内学習支援活動について

熊本博物館では、価値ある展示・収蔵資料や学芸員・研究員の専門知識及び技能を活用することで子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めるとともに主体的に生きる力・生き抜く力を育成する一助として、『学校教育支援事業』に取り組んでいます。この事業の中核は「ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）」と「館内学習支援活動（お迎え事業）」です。

次のページ以降に、館内展示・収蔵資料を教材とした「館内学習プログラム展開案・学習シート」のセットを紹介しています。

博物館には展示資料を通して皆さまに「伝えたいこと」があり、来館される方々には資料を介して「知りたいこと」があるはずです。

『博学連携事業』の中核に据えるべきは、言うまでもなく児童・生徒の皆さんですから「伝えたいこと」と「知りたいこと」がリンクするプログラムを提示するには、学芸員と学校の先生方との協働作業が不可欠であると考えました。そこで、初版（2018年版）におきましては市内小中学校で社会科・理科教育の振興に努めておられる先生方（全8名）にも研究協力員として参画していただきながら原案を作成し、その後、館内担当で編集・校正作業を重ねて仕上げました（全50題材）。

今回の改訂版では、前回の協働・参画作業のノウハウを生かし、学芸員が新規に作成・提案したいと考えたプログラムも追加しましたので、初版を上回る題材（数）を収めた冊子となりました。

2018年12月のリニューアルオープン以降に始めた「館内学習」ですが、既に多くのご利用・ご相談を受けるようになっていきます。

本改訂版（第2版）が、「館内学習プログラム（お迎え事業）」のさらなる利活用につながりますならば幸いです。

※ 本冊子中の写真等は全てモノクロになっておりますが、実際に館内学習を行うときには、学習シートをカラー印刷してお配りしています。